



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

フランス在外教育施設「パリ日本人学校での取り組みから」(国際理解教育・現地理解教育)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠本, 満 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174431

フランス在外教育施設「パリ日本人学校での取り組みから」

前パリ日本人学校 教諭

長崎県佐世保市立早岐中学校 教諭 楠 本 満

キーワード：学校行事，キャリア教育

1 はじめに

パリ市内から南西に約20kmのところにあるイブリーヌ県モンチニー市に校舎は建っている。児童生徒数が増加したことから、20年程前にパリ市内のトロカデロ地区から移転し、今に至っている。近くには世界遺産にも登録されているヴェルサイユ宮殿もあり、児童たちの春の遠足の場所になっている。自然に恵まれた場所にある。職員の住宅も学校から5分程のところとパリ市内の2つ地区にある。

授業時間は45分で小学部が5～6校時、中学部が6～7校時となっているが、放課後の時間はない。ほとんど全員がバス通学のため15時40分（7校時のときは16時40分）には絶対バスに乗れるように帰りの会を終わらないといけない。また、登校の時も渋滞や事故で8時にバスが到着しないこともある。バス通学児童生徒の出迎え見送りは職務のひとつである。なお、フランスでは児童生徒だけで登下校はできないことが法律で決まっており、必ず保護者が送り迎えをするようになっている。

2 学校のようす

(1) 職員構成及び学級数

- 事務長1名 事務官3名
- 現地採用講師5名
- 文部科学省派遣職員 校長1名 教頭1名 教諭12名
- 小学部 7学級（3年生2学級 他学年1学級）
- 中学部 3学級（各学年1学級）



(2) 生徒数

	学 年	1	2	3	4	5	6	合計
小学部	児童数	24	22	37	31	28	20	162
	クラス数	1	1	2	1	1	1	7
中学部	生徒数	21	17	9				47
	クラス数	1	1	1				3

(3) 中学部進学状況（2009年度）

- 愛知県立旭が丘高等学校
- 愛知県立知立東高等学校
- 帝京ロンドン高等学校
- 神奈川県立鎌倉高等学校
- 愛知県立千種高等学校
- 立命館宇治高等学校
- 東洋英和女子高等学校
- I・S・P（インターナショナル・スクール・パリ）
- 東京都国立国立高等学校

(4) 学校行事

- 4月 ○新編入学説明会 ○着任式・始業式 ○入学式 ○避難訓練 ○バス一斉下校指導
○授業参観・懇談 ○春の遠足 ○体験・修学旅行説明会 ○第1回進路説明会
- 5月 ○保護者面談(小) ○進路面談(中) ○修学旅行(中3) ○実力テスト ○体験学習(小5, 6 中1, 2)
◎現地校交流
- 6月 ○運動会 ○第2回進路説明会・在欧高校説明会 ○体験入学開始 ○期末テスト ◎社会見学事前学習
- 7月 ○授業参観・懇談会(小) ○保護者面談(中) ◎社会見学(ゴッホ・モネなど)
- 8月 ○編入学説明会 ○2学期始業式 ○バス一斉下校指導
- 9月 ○実力テスト ○秋の遠足(小中) ○パリ日本人学校まつり ○中間テスト
- 10月 ○第3回進路説明会 ○学習発表会 ○保護者面談(小) ◎ぶどう収穫祭
- 11月 ○保護者面談(中) ○期末テスト ○土曜参観・懇談会(小中)
- 12月 ○総まとめテスト(中) ○2学期終業式 ◎アメリカンスクール交流 ◎現地校交流
- 1月 ○3学期始業式 ○書き初め会 ○中学部卒業証書授与式(仮) ○就学児1日体験入学
○スキー教室(中)
- 2月 ○授業参観・懇談会(小中) ○新入生入学説明会 ○体験入学開始 ○期末テスト(中1, 2)
◎キャリア教育
- 3月 ○小学部卒業証書授与式 ○修了式・離任式

3 学校行事の取り組みから

(1) 3大行事について

パリ日本人学校で3大行事といわれているのが、「運動会」「パリ日本人学校まつり」「学習発表会」である。パリ日本人学校まつりを除けばどの学校でも実施しているものである。これらの行事に関しては、派遣教員の配偶者も参加を義務づけられている。

運動会については、小中学部で紅白に分かれて得点を競い合っている。やはり体力が低下しているのかということを経験した。練習を通して実感した。「何故?」と思うような場面で怪我。大事をとって救急車を呼んで現地の病院に搬送することになる。

パリ日本人学校まつりは一部が学校主催、二部が保護者主催となっている。一部では小学部の児童会を中心にフランスと日本の踊りなど現地理解に努めている。地元のフランス人も多数来校し、日本の雰囲気を楽しんでいる。また、二部では保護者が3ヵ月以上前から準備してきた企業品の販売や出店・餅つきなどを行い、子どもたちも日本の文化に浸っている。中学部では、小学部向けの催し物としてこの時間帯にお化け屋敷を実施し、大盛

況である。

学習発表会は、各クラス15分から20分の持ち時間を出し物を発表する。朗読・音楽発表・劇と学年で内容を決めている。児童生徒に学習発表会の取り組みを通して、様々な事を学ばせる事が大切であるが、観客をいかに盛り上げるかで発表内容の充実を図ろうとする派遣教員もいた。

(2) フランスならではの行事について

通常の行事は日本と少し違うところがあっても、概ね同じようなものであった。自分自身が、やはり「フランスだなあ」と実感したのは、「体験学習」「現地校交流」「パリ市内社会見学」「スキー教室」である。

体験学習は、南仏と西仏で1年おきに実施している。中心になるのはヨット実習である。南仏は1艘に10人位乗れるヨット、西仏は3人位乗れる双頭ヨットであった。子どもたちは自分たちで操作ができる西仏のヨットを気に入っていたようだ。

現地校交流では、レ・プレ校という中学校へ出向き、校舎巡り、授業への参加など行い、最後にホールで日本の折り紙交流を行った。10月には、現地校からぶどう収穫祭に招かれぶどう摘みぶどう搾りなどを体験し子どもたちも大変喜んでた。12月のクリスマスシーズンにはパリ日本人学校に招き、書道・はねつき・独楽まわしなど日本の文化に触れる交流を行った。最後に日本語・フランス語・英語でのクリスマスソングを歌って盛り上がった。

秋の社会見学は中学部1年生はオルセー美術館中心、2年生がルーブル美術館中心、3年生がポンピドー近代美術館中心の美術館・博物館巡りである。1日ばかりで4つほどの美術館などを見学することになる。夏休みから見学コースを担当は設定し、下見も入念に行わなければならない。見学しているときは、安全にさえ気をつけていれば、公務というのを忘れてしまいそうになる位充実している。

スキー教室には3年連続で参加したが、アルプスの山並みを眺めながらのスキーは最高のものであった。しかし、荒天・事故発生ときは、一転、楽しむ余裕もなかったのは言うまでもない。また、準備・事後の取り組みは綿密に行わないといけないので苦労したものである。



4 キャリア教育の取り組みから

総合的な学習の時間の取り組みは1年生は「フランスを知る」、2年生が「フランスと日本の比較」、3年生が「フランスと日本における自分」と調べ学習を中心に進め、最後に発表という流れであった。そこでキャリア教育の観点から一人一人の生徒に望ましい勤労観・職業観をつける学習も必要ではないかと考え、総合的な学習の時間の見直しを図った。本年度は、「できることをできるところから」というスタンスで取り組んだ。

前理事長が日本航空パリ支店長（以下JAL）ということで学校長と共に趣旨説明を行い、快く引き受けていただき、担当者と実務協議を進めていった。次のような内容で進めた。

- ①事前に4職種（パイロット・客室乗務員・グランドスタッフ・航空整備士）についての調べ学習



②調べ学習で出た質問をまとめJALへ送付

③パイロット・客室乗務員・グランドスタッフ・航空整備士による講話説明

④講話に対する質疑応答

調べ学習の段階において、各生徒から様々な質問が出ており、学習への関心の高さを伺えた。JALへの質問等を取りまとめ、職業講話会当日に質問に添った形で説明を行っていただいた。

5 3年間で学んだこと

① 在外教育施設で日本の教育を行うことの意味

将来日本に帰り教育を受ける子どもたちがほとんどであり、それを如実に物語っているのが、中1から中3に進むにつれて生徒数が減少することである。進学のことを考えて日本の中学校へ転校手続きをとる家庭が多い。

将来日本の学校に通っても困らないように学力を保証してあげることが責務と痛感した。それを念頭に置いて授業を進めていった。それと日本での生徒の様子などを知らせてあげることも大切であった。両親は日本人だが、生まれも育ちもフランスという生徒もあり、日本についての情報を的確に伝えることも重要であった。

② 教育はサービス

日本人学校は私立校であり、保護者は授業料等を支払っている。その分、学校への意見など厳しいものもあった。また、校内での怪我においては、日本以上に誠意を持って対応しないといけないことを実感した。

③ 日本の良さ、日本が学ぶべき事

フランスの商店のほとんどが日曜日が定休日であることに当初戸惑っていたが、慣れてくるとあたりまえになってきた。人間的な暮らしをフランス人はしていると実感するようになった。日本はあまりに便利すぎると思っている。

④ 日本各県の実情事情

北は北海道、南は沖縄から職員が集まり仕事をする各県の考え方・やり方の参考になる点や疑問に思う点があった。指導要録の書き方にしても「そのような記載の仕方をするのか」ということもあったので、説明責任がとれる方式に統一して帰国してきた。進路関係では東京及び関東圏の方針にそそえた。

⑤ フランス現地の文化

公務・校務の合間を縫って、長期休業中を中心にフランス・西欧などの文化に触れることができたのは何物にも代え難いものになった。テレビ等でしか知らない建造物が目の前に現れると感動・感激したものである。

このような機会を与えていただき、文部科学省・長崎県教育委員会に感謝いたします。この経験を様々な形で生徒へ還元することが努めだと考えています。